

## エネルギー基本理念への認識とコミッショニングの役割

### (6) 第4回吉田昌郎元所長を偲ぶ会にみる顕彰の論理的基盤への視点

An Approach to the Fundamental Aspect of Energy and the Art of Commissioning

(6) An Aspect to the Logistic Bases to Honor Masao Yoshida the Ex-Manager at the 4th Memorial Party

\*渡邊一男<sup>1</sup>, <sup>1</sup>WNR-Cx 渡邊研究処

「吉田昌郎元所長を偲ぶ会」(理事長・杉山勝行)では、「第4回吉田昌郎元所長を偲ぶ会」を命日である7月9日に品川区民会館「きゅりあん」で催し、筆者が講演を依頼され、原産協関連者にもご相談して受諾した。企画への反応は良好であり、現状における顕彰への論理的基盤への視点につき考察し報告する。

**キーワード:** 福島第一事故, 吉田昌郎所長, 第4回顕彰会, 論理的基盤, 電力・原爆・原発推移への全歴史的視点

#### 1. 緒言

顕彰会はミッションとして「原発事故史上最悪の事態の緊急対応を通じて、日本と世界を救った吉田昌郎元所長の勇気ある決断と行動と実績に対して敬意を払い、これを広く顕彰する。」を第1に掲げている。

福島第一原発  
第4回吉田昌郎元所長を偲ぶ会

吉田元所長の命日  
7月9日(日)  
17:00~ 16:30開場

開会の辞 司会 濱川一郎  
17:01 挨拶  
17:02 挨拶・実質の挨拶・主催者挨拶  
17:36 詩の朗読  
17:40 吉田所長を偲んで映像  
17:50  
「吉田元所長の重要発電機建設現場と津波問題」(20)  
「新・インターネットビジネス研究所理事長 杉山勝行」  
「ポスト原発のポテンシャルをトリウム炉で実現はしているのか?」(40)  
総合エネルギー研究会 事務局長 大橋圭一郎  
18:50 休憩  
19:00 基調講演  
「吉田顕彰の教訓は、どこまで活かされているのか?」  
(一社)日本原子力学会・会員 NPO法人トリウム炉建設  
フォーラム・会員 渡邊一男先生

#### 2. 現状における顕彰の意義

##### 2-1. 顕彰の論理的基盤の客観的把握

顕彰会幹部の方々は熱心に吉田所長の功績を論じている。依頼講演者は運転管理技術者として如何に論じるべきの基本的視点がすべてである。惟うに、福一の如き極限状況にリーダーが直面する事象は日本の電力開闢以来見当らない。

即ち、電力進展の歴史的経過における問題事項を並挙し、その中の素因的要件の重点的認識とそれらとの関連性の把握にその根拠となる視点を求めるのみであろう。

##### 2-2. 電力産業の原初的矛盾

電力事業も端緒からの矛盾を探ると、50・60 c/s 併存から始まる。ガス灯から電灯への推移にロンドン市民は競争条件の公平を唱え地下埋設となり資本主義原則を貫徹した。日本市民は電柱乱立を許容した。

##### 2-3. 原爆被爆への科学者の責任の認識と対応

原爆では、被爆被曝者を除いてのことであるが、広島・長崎市民がアメリカを向いて恨み言のイメージである。一般市民は当然であるが、科学技術者がそれでよいかと思う。軍政の責任問題は別として、科学技術分野での自己責任的視点としては、原爆被爆に至った過程の内在的抑止への科学者の責任がまず問われねばなるまい。他方で市民においても、直前に沖縄県民の戦場被害があり、それらとの連帯的認識の表出を先行させ、沖縄・広島・長崎トリニティ会議的の共同意識があつて然るべきと考える。

##### 2-4. 原子力発電の発展と関連矛盾

「原子力」との基本用語自体が非国際的・非科学的の最大の「安全神話」である<sup>1)</sup>。東電では、2002年のシュラウド問題以降、愛社精神が戦陣訓となり、吉田元所長も時には能動的となり、終には受動者となって、戦中のリーダーに続く未経験かつ極度の制約条件下での事態への対応を迫られることとなった。地震・津波間の1号機IC作動の記述は福島ストーリーの出だしから誤った記述のままで放置されている<sup>2)</sup>。

#### 3. 結論

電力・原爆・原発とみて、吉田元所長はその歴史的諸矛盾の集積である施設において地震・津波に遭い、対応の指揮をとった。マニュアル・訓練も不充分であった。吾々の学ぶべきは、まずは全歴史的に状況を見定める視点であり、対応の意義を理解し、システムカルチャーが試されるケースと自覚すべきである。

#### 参考文献

- [1] 今こそ原発の廃止を, 日本カトリック司教協議会『今こそ原発の廃止を』編纂委員会, 2016-1-4, カトリック中央協議会  
[2] 福島第一・1号機IC非常用復水器作動の考察, 渡邊一男, 空気調和・衛生工学会大会論文集, 2016-9, pp.37-40

<sup>1</sup>Kazuo Watanabe<sup>1</sup>, <sup>1</sup>WNR-Cx Watanabe Lab.